

4年生への 応援メッセージ

4年生担任 古村 美津代
担任補佐 藤好 貴子



担任補佐 藤好 貴子先生・担任 古村 美津代先生

この「はなみずき」を手にする時、皆さんは、卒業論文や国家試験に向けて全力で頑張っている頃だと思います。もしかしたら、国家試験というプレッシャーに押しつぶされそうになっている人もいらっしゃるかもしれません。しかし、皆さんは、入学時より努力を続けてきました。さらに新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中で臨地実習を乗り越えてきました。今、辛いのは一人ではありません。皆さんの周りには、共に悩み、苦しみ、成長してきた友達がいます。努力は必ず報われます。自分を信じ、日々の努力の積み重ねを大切にしてください。これまで皆さんを応援してくれた周囲の方々の思いを忘れず、全力で国家試験に臨んでほしいと思います。

看護学科通信

はなみずき 第58号

Kurume University School of Nursing

777-1, Higashi-kushihara, Kurume City 830-0003 Japan

Tel.0942-31-7714 Fax.0942-31-7715



インド・ミティラー地方の民族画「スーリヤムッキーの木」

看護学科/ 新任教員の紹介

母性看護学 助教
南條 妃咲

助産師免許取得後、総合病院で勤務しました。母子に寄り添うことを大切にしながら、学生の皆さんと共に看護・助産の学びを深めていきたいと思ひます。宜しくお願い致します。

在宅看護学 助教
隈本 寛子

疾病や障害を持つ療養者や家族の願いが叶うように、生活の中でのよりよい看護をみなさんと一緒に探求していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



2021年
4月着任

左から
南條助教、隈本助教

オープンキャンパス 「オンライン配信」を実施して

4年 N.K

今回のオープンキャンパスは、COVID-19の影響もありオンライン配信となりました。実際にオープンキャンパスでは本学の学生として、高校生に久留米大学の魅力や講義、実習、行事などについて伝えることができました。本来であれば来場した高校生と直接お会いしてお話する予定でしたので残念ではありますが、少しでも本学のことを知っていただけたら嬉しく思ひます。先生方やスタッフの方々の協力もあり急遽ではありましたが、オンライン上での開催ができたことに感謝しています。高校生の方々の進路先のひとつとして久留米大学医学部看護学科を考えてもらえたらいいと思ひます。



今回のオープンキャンパスは、COVID-19の影響もありオンライン配信となりました。実際にオープンキャンパスでは本学の学生として、高校生に久留米大学の魅力や講義、実習、行事などについて伝えることができました。本来であれば来場した高校生と直接お会いしてお話する予定でしたので残念ではありますが、少しでも本学のことを知っていただけたら嬉しく思ひます。先生方やスタッフの方々の協力もあり急遽ではありましたが、オンライン上での開催ができたことに感謝しています。高校生の方々の進路先のひとつとして久留米大学医学部看護学科を考えてもらえたらいいと思ひます。

後援会会長挨拶

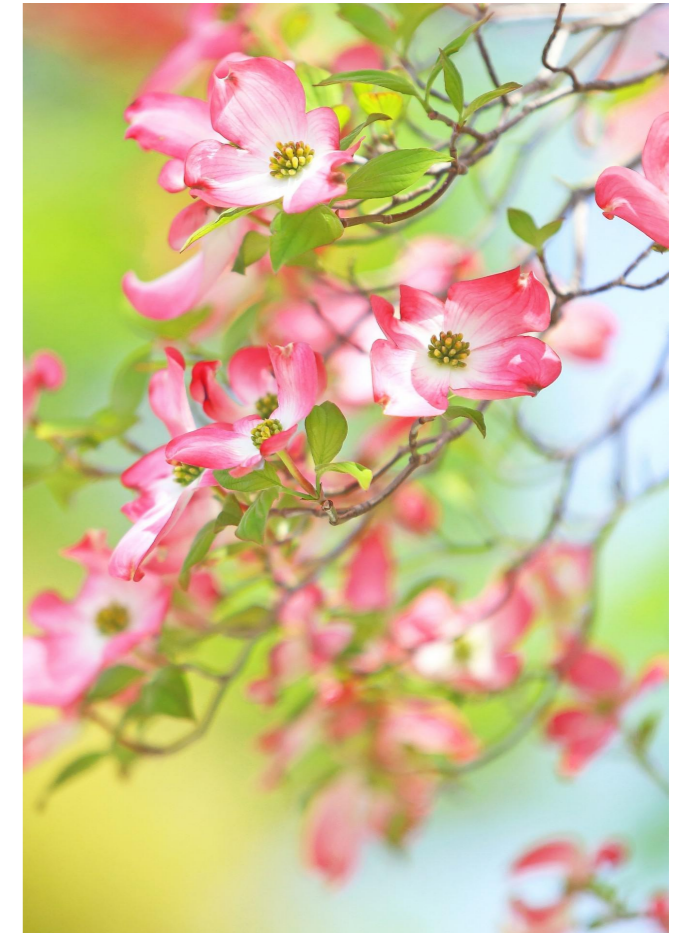
後援会会長 近藤 雅子

新入生、在校生の皆さん、それぞれに新しい生活が始まり半年が過ぎました。昨年度から続くコロナ禍で、様々な規制や制限と隣り合わせの毎日ですが、少しずつ自分のリズムを刻み始めている頃でしょう。なかなか収束が見通せない状況の中、連日、誌面やニュースなどで報道されるのは医療現場で果敢に戦い続ける看護職の皆さんの姿です。看護職としての責務にとどまることなく患者に寄り添う豊かな感性や共感性で懸命に毎日戦い続ける姿がそこにあります。学生の皆さんにおかれましては、決して思い描いていた学生生活ではないでしょう。しかし、そのような中で同じ志を持つ仲間と情報を共有し合い、互いに高め合いながら、一人一人が豊かな人間性と専門知識を併せ備えることを目標に自身のよさを伸ばして欲しいと思ひます。これからも健康に留意しながら日々を大切に過ごして下さい。後援会も皆さんを陰ながら応援しています。

後援会総会報告 後援会予算

令和3年度の看護学科後援会総会が6月19日(土)に開催されました。総会での承認事項は次の通りです。

- 令和3年度の後援会役員は、原則2年生以上の役員はそのまま、1年生からは新たに3名の役員が選出され、計12名が承認されました。また、会長に近藤雅子様(3年)、副会長に新村三奈様(3年)・田中洋子様(2年)、監事に有村幸子様(3年)・三橋幸恵様(2年)が承認されました。
- 令和3年度後援会予算については表のとおり承認されました。



寄付のお願い

「久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金」への寄付のお願い

2021年3月から、看護学教育の充実・振興を目的とした「久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金」を創設しました。皆様からのご支援により更なる看護学科の教育の充実を図りたいと考えております。

詳しくは本学HPをご覧ください。また、ご寄付は税制上の優遇措置(寄付金控除)の対象となっております。

久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金へ、皆さまからの温かいご支援をお待ちしております。

寄付金額 1口 1万円 1口以上

問合せ先 久留米大学医学部事務部 看護学科事務室
電話0942-31-7714



編集後記

今回ははなみずきはいかがだったでしょうか。学生のみなさんからのご協力を頂き、今回も無事に発行することができました。はなみずきを通して、看護学科の学生が一生懸命取り組んでいることや看護学科の行事について少しでも知っていただき、日々、充実した学生生活を送っていることを感じて頂ければ幸いです。今後もより充実したはなみずきを皆様にお届けできるよう、委員で頑張っていきますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い致します。

2021年度 学科通信委員

- | | | | |
|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 1年生 窪山 日菜
坂田 菜夏
中島 かりん | 2年生 及川 千穂
田中 涼佳
松藤 涼香 | 3年生 岸田 龍世
桐村 明莉
末吉 友香 | 4年生 清水 吾衣
高田 智佳
町川 美羽 |
|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|



戴帽式 2年生集合写真 2021年7月16日





久留米絨の偉大さ

1年 S.Y

「久留米大学の理念と歴史」の授業で久留米絨の機織り体験を通して、機織りはとても繊細で、丹念さと集中力が不可欠だということを学びました。1つの作品を作り上げるのに最長でも1年程かかるそうです。制作工程の中で、糸の印が合っているか、絡まりや重なりがないかなど、あらゆる視点からアンテナを張った作業の繰り返しは並大抵なものではないと感じました。人に感動を与える久留米絨という文化が身近にあることに誇りを持ち、今回得た学びは忘れることなく大切な伝統として、この胸に留めておきたいです。



災害看護学の演習を終えて

2年 T.M

災害看護の演習を通して傷病者に対する処置について学びました。傷病者を運ぶ際、複数人で担架を使って運ぶことが多いですが、不可能な場合、背負って運びます。演習で傷病者役の学生を背負った時は相手が気を遣ってくれたり、傷病者役の筋肉が反射的に働いたりしたことにより辛うじて搬送できました。しかし、実際の傷病者では、そのように都合良く身体が動くことにはないため、もう少し気を引き締めて行わなければいけないと感じました。これから多数の演習がありますが、その都度、臨床での患者さんを想像し、実践に近い技術を身につけていこうと思います。



憧れのフライトナースを目指して

1年 E.Y

私は、救急医療に必要な心肺蘇生法などを競う全国医学生BLS (Basic Life Support: 一次救命処置) 選手権大会や講習会に参加できるという点に魅力を感じ、救急サークルに入部しました。また、大会の参加にあたっては久留米大学病院高度救命救急センターのスタッフの方から指導を受けることもでき、大学病院内のクリニカルスキルトレーニングセンターでシミュレーターを用いた練習など、ここでしか得ることのできない学びがあります。活動が制限されるコロナ禍ですが、救急サークルの活動を通して確かな知識と技術そして豊かな人間性を身につけたいと思っています。



生活援助技術Iを通して

1年 K.N

生活援助技術Iではベッドメイキングやシーツ交換、全身清拭など、看護師になるために必要となる基本的な看護技術について実践的に学ぶことができました。援助の際に注意しなければならないことや細かい手順が多く、初めは戸惑いましたが、ペア同士の練習や先生方が丁寧に教えてくださったことで、着実に技術を身に付けていくことができました。患者さんにとって負担がかかりにくい方法や患者さんの気持ちを考えることなど、多くのことを気にかけてながら援助する必要があることを学びました。前期の講義で学んだことを後期の講義に繋げて、さらに多くの技術を身に付けていきたいと思っています。



解剖学実習を終えて

2年 S.N

解剖学実習では、実際に脳や臓器、血管や神経などを直接見て触ることができ、人体の構造についてしっかり学ぶことができました。事前レポートや事後レポート、課題など大変な部分もたくさんありましたが、御献体の臓器や組織を通して、看護技術の根拠となる理由や援助方法について考察をすることができました。御献体を提供して下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。この気持ちを忘れることなく、また、この解剖学実習で得た知識と経験をこれからの学びに活かしていきたいと思っています。



戴帽式を終えて

2年 M.M

新型コロナウイルスのまん延による約半年以上の延期を経て、無事に戴帽式を実施することができたことを嬉しく思うとともに、ご尽力いただいたすべての方々に感謝の気持ちを伝えたいです。ひとりひとりにナースキャップをつけていただき、あらためて看護学生としての責任や、この状況下で看護を学ばせていただいていることへの感謝の気持ちを感じ、自分の理想とする看護師像について見つめ直すことができました。この戴帽式での経験を忘れずに12月に行われる臨地実習に向けて、日々頑張っていきたいと思っています。



4

April

5

May

6

June

7

July

8

August

小児療養生活支援論の「赤ちゃん先生」で学んだこと

3年 D.A

赤ちゃんとの触れ合いを体験する「赤ちゃん先生」の授業を受けて、教科書では分からない個別の発達段階について学ぶことができました。今年はコロナ禍だったこともあり直接赤ちゃんやお母さんとお会いできませんでしたが、オンラインの画面越しで赤ちゃんの普段の生活やお母さん方の経験談を聞くことができ、看護する上で身体だけでなく精神的なケアもしていくことが大切だと分かりました。今回の体験では、実際に話を聞くことでより理解を深めることができました。



臨床心理学の演習を終えて

3年 K.R

臨床心理学の演習ではグループごとに事例が与えられ、看護師や患者さん役を演じ、「会話」について学びました。初対面である患者さんに対してどこまでプライベートについて質問をして良いか考えることがとても難しかったです。しかし、これは、看護師の温かな好奇心を持って積極的に尋ねることが大切であると学びました。また、一番大切なことは、何か良いアドバイスをしようという気持ちではなく、しっかりと話を聞くということです。これらのことを、今後の実習などに活かしていきたいです。



専門実習前技術練習を終えて

3年 G.Y

専門実習前技術練習を終えて来週から実習が始まると感じたと同時に、自分の技術力のなさを痛感しました。今回の技術練習では自分の知識やアセスメント能力、看護実践能力がまだまだ足りないことを知ることができました。それらの能力の不足を実習開始までに学習して補い、準備して実習に臨みたいと思います。これから約半年間の実習を終えた際に、自分がどれだけ成長し、看護学生として質の高い看護を提供できるかが楽しみになりました。現在、新型コロナウイルスの影響で病院での実習ができない学校もある中で、実習ができるという恵まれた環境に感謝し、これからの実習に励んでいきたいと思っています。



総合実習を終えて

4年 M.S

私は2週間久留米大学病院で総合実習を行いました。これまでの実習では1人の患者さんを受け持たせていただいていたが、今回の実習では2人の患者さんを受け持たせていただき、時間管理が大きな目標となりました。患者さんはがん治療を受けている患者さんを受け持たせていただき、抗がん剤を投与する時間や検査予定など前日から当日にかけて患者さんのスケジュールを把握し綿密な計画立ててケアに臨むことが大切であること、また、他の看護師としっかり情報を共有し連携していくことの重要性を学びました。さらに看護師長や看護主任から看護管理についてのお話を聞かせていただき、看護師として働くイメージが明確になり、より一層勉強に励みたいと思います。



就職活動を終えて

4年 A.R

今年の就職活動は、昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響を大きく受けました。オンラインでの就職活動が基本となり、最初は慣れない状況に不安を感じていました。しかし、実際には、県内外の病院説明会に参加しやすくなり、比較できる病院の幅が広がるというメリットを感じました。また、登校自粛期間も、友人とオンラインでの情報共有や面接練習を行うことで、自信を持ち本番の面接に臨むことができました。コロナ禍で不自由なことも多いですが、就職活動を通して、物事を前向きに捉え、行動する力が身につきました。この力を活かし、国家試験に向けても努力を続けていきたいです。



地域生活支援実習

4年 Y.K

地域生活支援実習では、実際に働かされている保健師の方に指導して頂き、保健センターで実施されている事業への参加や、家庭訪問を実施しました。特に、保健指導を見学させて頂く場面が多く、指導中の会話の中で、対象者の普段の生活や性格を適切にアセスメントし、それに合わせた指導を行うことが重要であると学びました。指導者の方と先生の指導の下に、メンバー同士で協力し合いながら楽しく実習をすることで、学びの多い実習となりました。

